

分布密度からみる本県沖のケガニの資源水準

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

1 部門名

水産業－資源管理－カニ類

2 担当者名

安倍 裕喜・坂本啓・山田学

3 要旨

福島第一原子力発電所の事故による沿岸漁業の操業自粛により、異体類を主として多くの魚種で資源の増加が確認されている（坂本ら、2018）。一方で、ズワイガニなどのように操業自粛による資源増加がみられない魚種もいることから、本研究ではケガニを対象に、水揚げ量・調査船調査によるケガニの分布密度（尾／km²）の変動を整理した。結果、小型個体を中心に低い分布密度であることが判明した。漁業者に注意を喚起する。

- (1) 近年のケガニの分布密度は、鵜ノ尾埼沖・塩屋埼沖で大型個体・小型個体を問わず減少傾向にあり、特に小型個体の分布密度の下落が顕著であることから、新規加入状況が悪いことが示唆される（図1）
- (2) 底びき網漁業の延水揚げ隻数は増加傾向にあり、2018年には3,500隻を超える数であった一方、水揚げ量は減少傾向にあり、同年の県全体での水揚げ量は1.7トンであった（図2）。

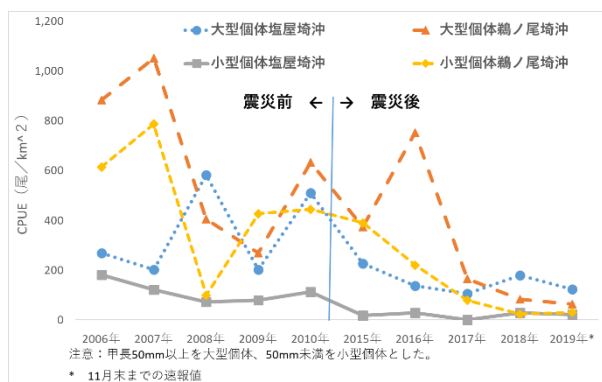


図1 着底トロール調査によるケガニの分布密度

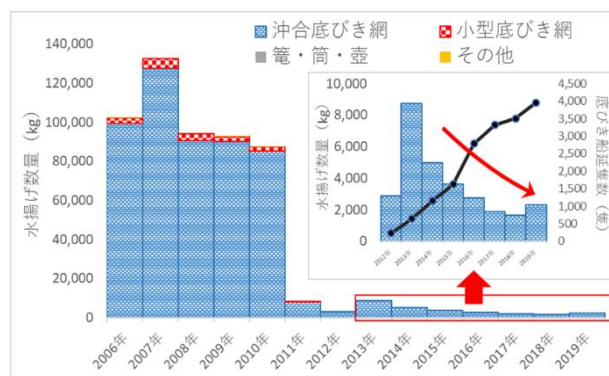


図2 ケガニの漁法別水揚げ数量の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度～令和元年度
- (2) 研究課題名 底魚資源の管理手法に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 福島県農林水産部水産課，福島県海面漁業漁獲高統計，平成18～30年版。
- (2) 坂本啓他，いわき丸トロール調査における主要魚介類の個体数密度の推移，平成30年度水産海洋研究センター試験研究成果，2018。